

地域の資料・情報センターとしての 図書館へ

令和3年度第2回柏市立図書館協議会 情報提供
2021年12月24日

福島幸宏

慶應義塾大学文学部准教授／東京大学大学院情報学環客員准教授

fukusima-y@keio.jp

<https://researchmap.jp/fukusima-y/>

様々なデジタルアーカイブ

- 柏市史料デジタルアーカイブ
https://www.city.kashiwa.lg.jp/about_kashiwa/culture/digital-archive/index.html
- 東寺百合文書WEB <http://hyakugo.kyoto.jp/>
- ジャパンサーチ <https://jpsearch.go.jp/>
- OneSearch <http://search.nlb.gov.sg/>
- Europeana <https://www.europeana.eu/portal/en>
- Google Arts & Culture <https://artsandculture.google.com/>

これからを考える手がかりとして：写真とデジタルアーカイブ

- 沖縄県公文書館の「[写真が語る沖縄](#)」

- NARAからの収集写真、地方写真、県所蔵写真などを横断で検索



- 白黒写真のカラー化とアプリ化 (庭田・渡邊2020)

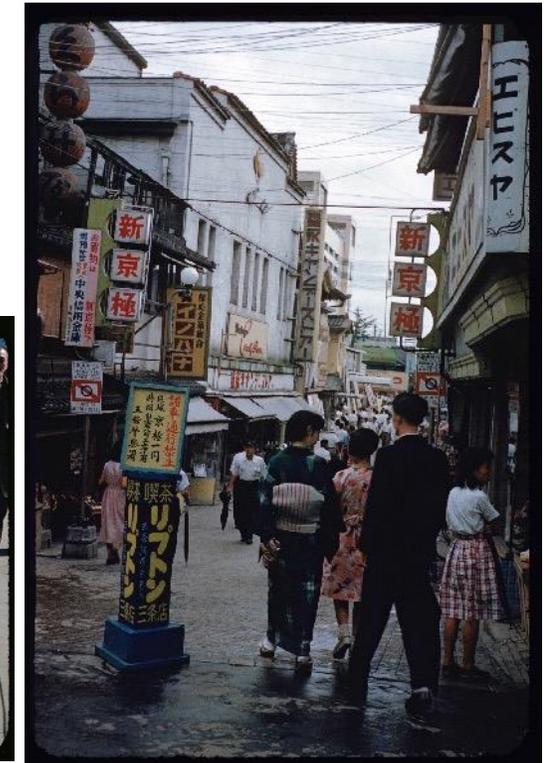
- 自動着色+聞き取りによる補正+新たな写真の発掘+展示会の開催など

- 占領期写真の収集

- 衣川太一 (写真収集家 / 神戸映画資料館) によるオークション収集
- 展示「[戦後京都の「色」はアメリカにあった!](#)」 (植田ほか編2021)

- [肖像権ガイドライン](#)の公開

- デジタルアーカイブ学会 (2021年4月19日)



これからを考える手がかりとして：写真とデジタルアーカイブ

• 北摂アーカイブスの活動

- 大阪府豊中市+大阪府箕面市の共同運営
- 実質は「地域フォトエディター」による活動

• あいしょうデジタルライブラリー

- 滋賀県愛荘町立愛知川図書館での広報写真公開
- 広報課の写真から。小規模図書館での好例

• 「みんなで古写真」の展開

- 渋谷栄一フォトグラフの一部
- 撮影場所や登場人物の特定、関連文献の登録などをおこない、学術資料としての価値向上をめざす

• Wikimedia Commonsへの写真登録

- ウィキペディアプロジェクトの一部
- 再発行や再配布／二次的著作物／商用利用の許可などが条件
- 柏市に関する活用可能な写真が大量に登録



本日の構成

- はじめに
- 1 図書館サービスの新段階
- 2 手段としてのデジタルアーカイブ
- おわりに

はじめに

自己紹介

- 学生・院生時代は日本近現代史を専攻
 - 高知県出身・島根大学・京都府立大学大学院・大阪市立大学大学院
 - 神社史、地域社会に関心／自治体史調査・フィールドの調査を経験
- MLAの職員・研究者として
 - 京都府立総合資料館歴史資料課／庶務課 2005年4月～2015年3月
 - 京都府立図書館企画調整課 2015年4月～2019年3月
 - 東京大学大学院情報学環特任准教授 2019年4月～2021年3月
 - 慶應義塾大学文学部准教授 / 東京大学大学院情報学環客員准教授 2021年4月～
- 京都府職員として関わったこと
 - 京都府行政文書(重要文化財)の管理運用 → 20世紀以降の紙資料で初の重文指定
 - 戦時期・戦後の行政文書の公開 → 京都の戦時期／占領期研究の進展
 - 文化庁 指定文化財(美術工芸品)企画・展示セミナー修了 → 学芸員としての中核的な研修
 - 「[京都市明細図](#)」の公開 → 京都の街歩き事業の基盤に
 - 「[東寺百合文書\(国宝\)](#)」のweb公開 → CC BYで公開／Library of the Year 2014大賞受賞／世界記憶遺産に
 - 京都府立図書館サービス計画策定 → 図書館協議会の設置／図書館の評価基準を検討
 - 都道府県図書館の横断検索システムの超高速化 → カーリルのシステムを導入
 - [デジタルアーカイブの連携に関する関係省庁等連絡会・実務者協議会](#)
[メタデータのオープン化等検討ワーキンググループ](#) 構成員 → ジャパンサーチへ
 - 京都府立図書館貴重書コレクションの構築 → IIIF+DOI+CC0 の組み合わせは国内初
- 現在
 - 慶應義塾大学文学部准教授／東京大学大学院情報学環客員准教授
 - これからの学術情報システム構築検討委員会委員
 - 日本歴史学協会常任委員／デジタルアーカイブ学会理事／日本アーカイブズ学会委員 など
 - MLA(博物館・図書館・公文書館)を軸に知識情報基盤・デジタルアーカイブについて検討

図書館の“拡大”を支えた社会状況の変化

- 社会構造の変化
 - 900あまりの自治体の消滅・地方の無人化・都市の高齢化(増田2014)
 - 戦後の日本社会を支えてきた構造(「慣習の束」)の不可逆の変化を指摘(小熊2019)
 - 今後は“縮小社会”を前提に:これまでは経済成長を背景に仕組みを拡充 →「撤退」(林・斎藤2010)
- 資料認識の深化
 - マンガ・動画資料:映画／テレビ／動画
 - 空間自体の情報化:建築／地域／地球／宇宙空間
 - 人間の情報行動:コロナ禍におけるわれわれの振る舞い
 - デジタルツインの試み [東京都デジタルツイン実現プロジェクト\(2021\)](#)／[実証プラットフォーム「イノベーションフィールド柏の葉」](#)
- 災害の多発
 - 阪神淡路大震災・東日本大震災の衝撃:地域自体の消滅を改めて経験
 - 復興過程における地域資料の重要性の指摘
 - 「平常時の課題」の指摘:自治体史収録資料でも流出・消滅の危機にある
- 地域の情報プールの消滅+対象の認識の拡大+絶えざる棄損の可能性
 - 資料自体の保存に大きな危機
 - さらに、地域や資料保存機関自体の存続も危ぶまれる

メガコンペティションのなかで

- 長い停滞期のなかで露呈したこと
 - CECD諸国のなかで、あらゆる指標が最低ラインに
 - 高度成長期やバブルの中で見えなくなっていた〈格差〉の問題に改めて焦点が
 - 公的投資には、後年度負担を含めて、十分な準備と説明が必要な段階に
- 教育格差の現状
 - 情報教育、英語教育の本格化
 - 私立学校や重点公立学校と通常の教育課程の格差増大
- 雇用の流動とリカレント教育の重要性の再確認
 - まずは訓練者側にリーチすることが重要
- データ管理の重要性とコストの増大
 - 現場での行政情報の管理が破綻していることは明白
 - 「去年の調査データは〇〇さんが持ってまして…」が、様々な行政現場で大規模に展開している
- 社会に“可能性”を提示し、具体的に保障することが、公的セクター全体の役割に
 - 関係人口の形成と地域再生（田中2021）／柏市では住民と居住地域の関係構築が重要か？

Ⅰ 図書館サービスの新段階

社会を平準化する存在として

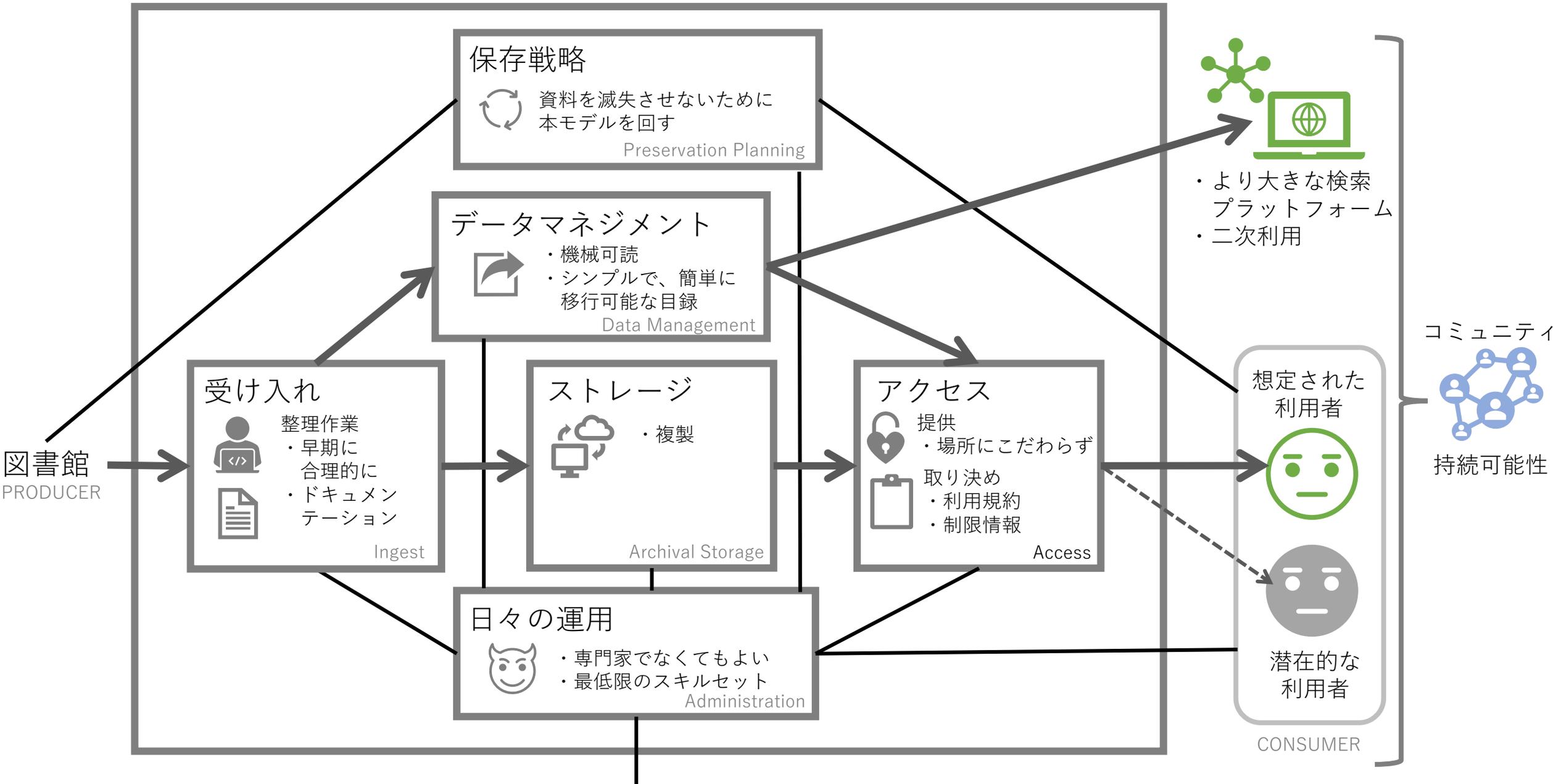
- 情報提供の側面から格差を埋めるための機能
 - 嶋田による理論と実践の往復(嶋田2019)
- まずは公的な情報へのアクセスの機会均等
 - 社会がいままで生み出してきたものの継承
 - 今行われている活動・投資の効率化
- 同時に地域の情報／私的領域にある情報の公共財化
 - 「文化資源」(「ある時代の社会と文化を知るための手がかりとなる貴重な資料の総体」文化資源学会2002「文化資源学会設立趣意書」)の概念をより発展させた「文化情報資源」全体の取り扱いを前提に
 - デジタルアーカイブを日常的に構築・維持できる準備(デジタルアーカイブジャパン推進委員会及び実務者検討委員会2021「ジャパンサーチ戦略方針 2021-2025「デジタルアーカイブを日常にする」」)
- 真の意味で地域の情報のハブになること
 - 必要な情報を必要としている場所に届ける、ということは近代社会成立の大きな要件であり、図書館の使命
 - 流通書籍・データベースなどの外部からの情報へのアクセス保障 + 地域の情報の集約と発信
 - 地域の情報の集約・発信の手段としてのデジタルアーカイブ

地域資料の範囲

- 蛭田廣一の長年の経験にもとづいた議論(蛭田2019)
- 地域資料・情報の発掘とその活用
 - 「思い出のこし」の展開(相宗2020) / デジタルアーカイブ到達以前の重要な活動
- 行政由来のデータ管理の重要性
 - エビデンス・ベースド・ポリシー・メイキング(根拠に基づく政策形成)
 - 近代社会成立の梃子になった考え方をよりデータを強調して主張しているもの
 - データの管理コストは増大し、現場での行政情報の管理は困難になりつつある
- 「地域資料」の幅を広げていく方向に
 - いまの地域を考えるための資料はすべて、公立図書館にとって重要な地域資料(福島2021a、福島2021c)
 - 特に戦後社会を支えた各種団体の資料(平川2020)
 - 「プレ文化資源」と呼ばれる資料から、自分たちで価値を発見していく過程が重要となる(福島2011)
 - スナップ写真こそが、地域にとって重要な価値を持つ可能性(福島2021b)
 - ボーンデジタルの情報、集積されたデータも焦点に(福島2021c)

地域資料をデジタルリソースに転化する

- 市民参加型のプロジェクト
 - オープンデータ: クリエイティブコモンズライセンスを活用した展開 (福島2014) (澤谷2018)
 - 参加型編集: [WikipediaTOWN](#) (是住2015)
 - 「資料から情報を引き出し加工するという情報の構造化の段階まで、MLA機関は見据えなければならない」 (福島2017)
- 地域資料の利活用・バックアップのために
 - 人々が非常に多様な情報を処理している現在において、日常生活に貫入できない情報は、結局顧みられない
 - ユニーク資料は失われれば回復の方法がない
 - 地域の集落自体が消滅の危機に瀕した際の記録として
 - ただし一点一点のメタデータ化は非常に手間がかかる
- 2段階の整理の提案 (福島・天野2019)
 - 必要なのはレジストラ (登録者)
 - とにかくユニークIDとスナップ写真のみでも情報を出して、資料の存在を公に / そのためのスリムモデル
 - その後に (余裕があれば) カタロガーが十分なメタデータをつくっていくという仕掛け
- そのための権利問題への十分な理解
 - 知財分野での新段階 (デジタル対応 / オープン化) の議論の蓄積 (福井、数藤2019)



スリムモデルによるアーカイブ資料のマネージメント(福島、天野2019より)

MANAGEMENT

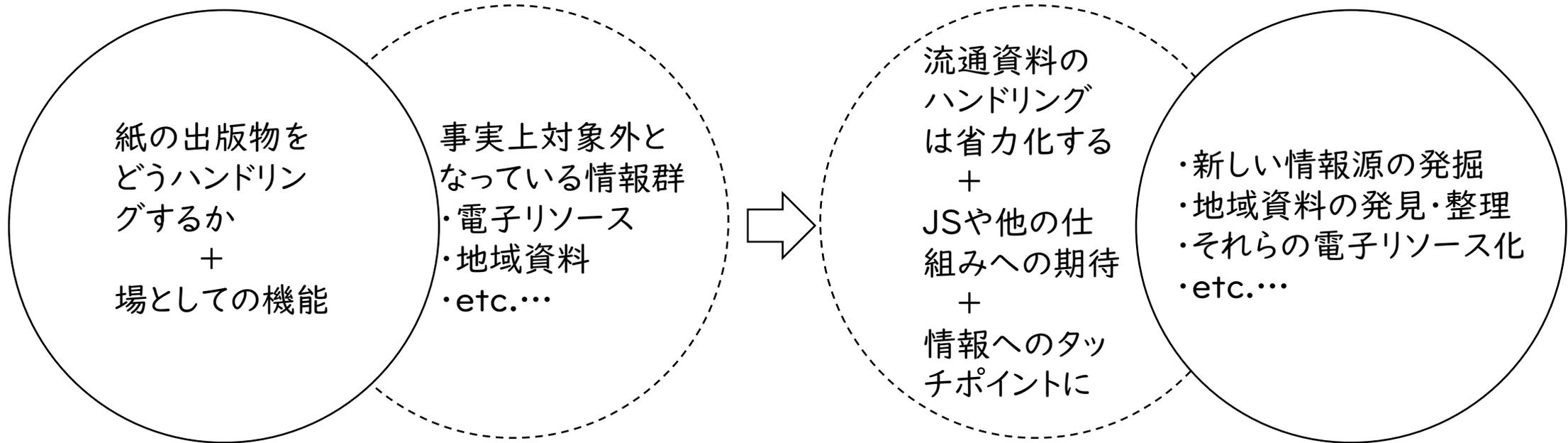
※OAIS Functional Modelを元に作成

考え方の整理

- 図書館に割り当てられた限られたリソースをどう活用するか
 - 地域の文化情報資源が重要だという前提で
 - 地域情報の集約と博物資料・アーカイブ資料の発掘
 - しかし、その収集・整理・提供には新たなリソースが必要
- ではどの業務に注力するか？
 - 流通情報へのアクセス保障は大前提として最重要／電子リソースの効率的な提供
 - 知識情報の発掘／提供に絞ってサービスを再構成する
- 眼前の利用者を適切な場へ誘導する
 - 広場機能
 - 地域医療で解決すべき方々
 - 児童サービスの専門家
 - 流通情報についても、現在提供できている情報で本当に良いのか？
- 新出の指摘
 - サービス開発によって獲得されたリソースを失わないか？
 - 各個人にとっての権利性・一回性の保障は重要では？
 - 諸外国でもできてないのでは？

リソースの再配分を

• リソース移行のイメージ

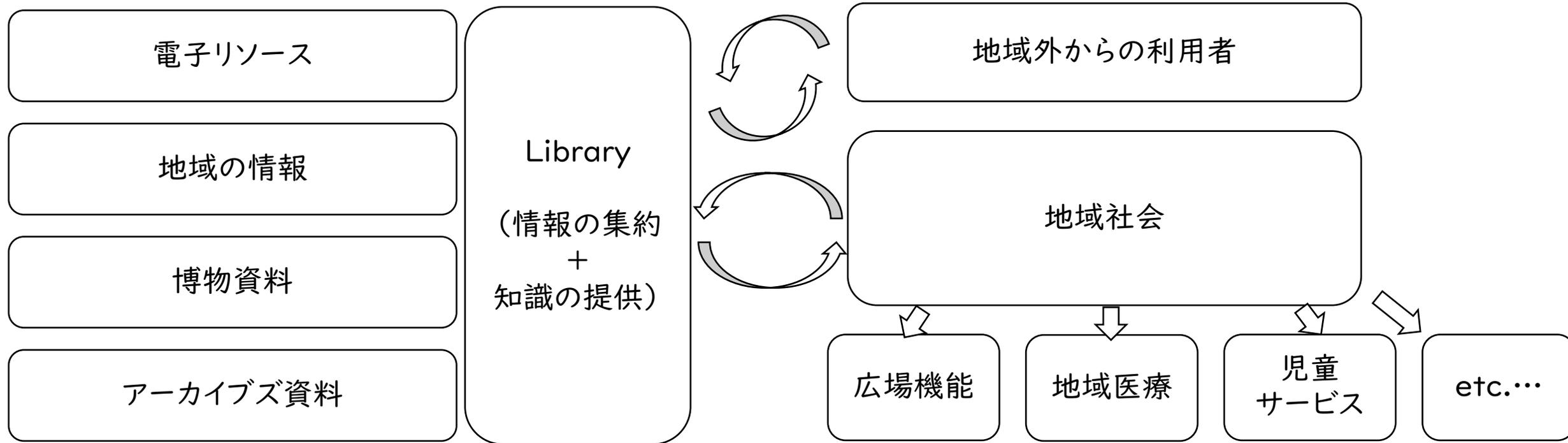


• 要点

- 流通資料のハンドリングの省力化
- “ここにしかない資料・情報”への注力

図書館機能の再定置の試案

- 外部情報の提供と地域の文化情報資源の発掘に注力



- 「利用者を単なる享受者から情報の発信者に転換するために、そして資料をより深く使ってもらうために、専門職たる司書の実力を十分に発揮させるために」(福島2018)
- 「デジタルと物理の各資料を往還しつつ、かつデジタルを軸に資料の壁を乗り越え、ハイブリット化を目指すことを通じて、地域や団体の情報のハブとなることを指向」(福島2018)

2 手段としてのデジタルアーカイブ

デジタルアーカイブ：現段階の福島の定義

- 社会が遺すことを選択した／すべき知識情報基盤としてのデジタルデータと、それにまつわる仕組みの総体。利用規約の明示、機械可読性の担保、データ移行性、万人へのアクセス保障、真正性や永続性の確保、がその要件となる。
- 要件としては以下（スリムモデル（後述）+ α ）
 - 利用規約の明示：基本中の基本であるとともに、二次利用促進のため
 - 機械可読性の担保：データ流通・二次利用促進のため
 - 環境に依存しないデータ移行性の担保：特定の環境・システムに依存しないため
 - アクセシビリティの確保：多様な環境での利用を可能とするため
 - 真正性の確保：データの由来と改変の経緯の記録
 - 永続性の保障：システムではなく社会的な仕組みに依拠して

オープンデータ

• オープンデータの定義

- 「オープンデータ基本指針」(高度情報通信ネットワーク社会推進戦略本部・官民データ活用推進戦略会議 決定:2017年5月30日)
- 二次利用が可能な利用ルールで公開
- 機械判読に適したデータ形式
- 無償で利用できるもの

• キーワード

- 二次利用
- 機械判読
- オープンデータの5つ星
- クリエイティブ・コモンズ・ライセンス

「オープンデータの5つの段階(出典:★)」と、データ形式

段階	公開の状態	データ形式例	参考) Linked Open Data 5star	
1段階	オープンライセンスの元、データを公開	PDF、JPG	OL - Open License (計算機により参照できる(可読))	人が理解するための公開文書(編集不可)
2段階	1段階に加え、コンピュータで処理可能なデータで公開	xls、doc	RE - Readable (Human & Machine) (コンピュータでデータが編集可能)	公開文書(編集可)
3段階	2段階に加え、オープンに利用できるフォーマットでデータ公開	XML、CSV	OF - Open Format (アプリケーションに依存しない形式)	
4段階	Web標準(RDF等)のフォーマットでデータ公開	RDF、XML	URI - Universal Resource Identifier (リソースのユニーク化、Webリンク)	機械判読可能な公開データ
5段階	4段階が外部連携可能な状態でデータを公開	LoD、RDFスキーマ	LD - Linked Data (データ間の融合情報が規定。検索可能)	

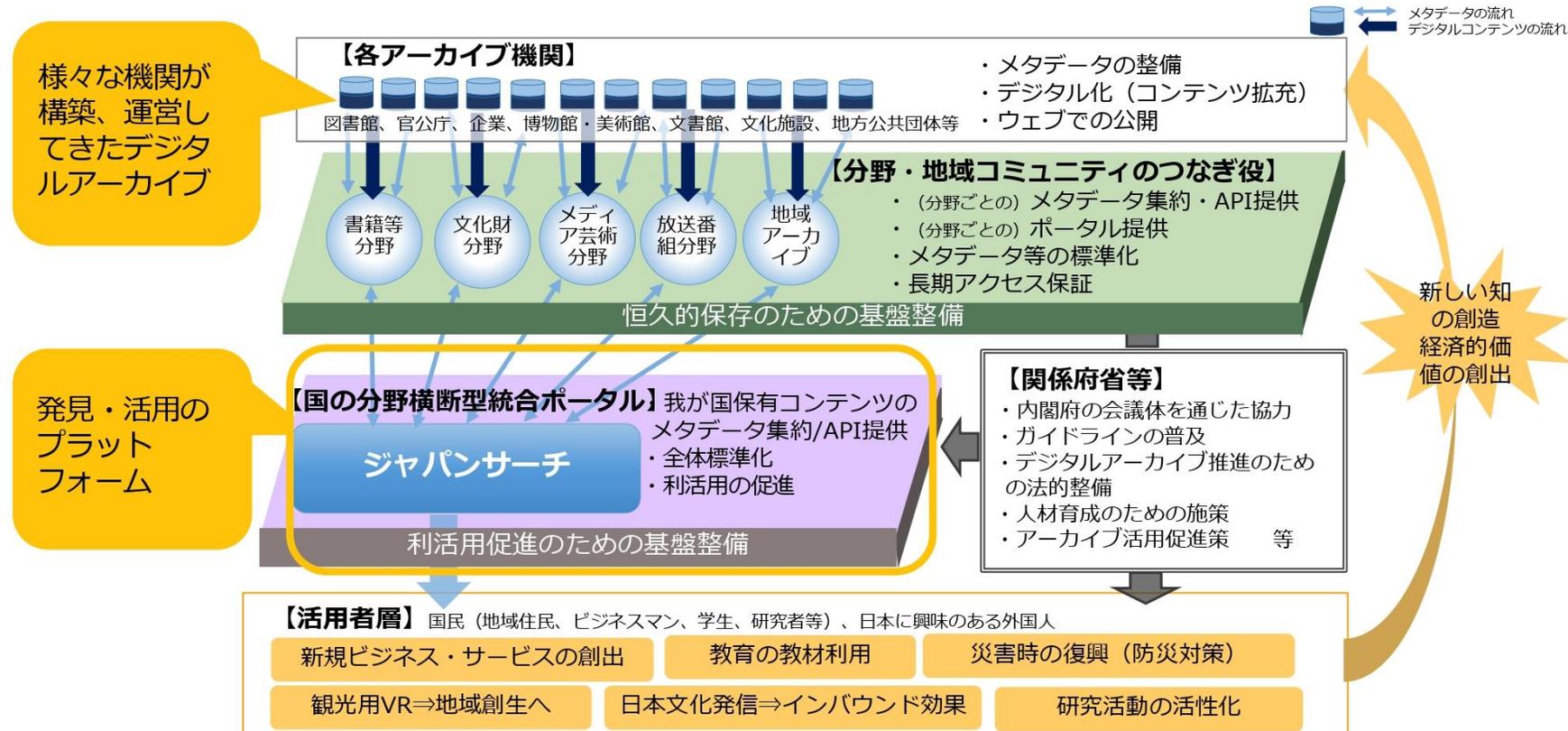
オープンデータの5つの段階

出典: ★ Open Dataのサイト (<http://5stardata.info/>) およびTim Berners-Lee氏のLinked Dataに関する提言ページ (<http://www.w3.org/DesignIssues/LinkedData.html>) を参考に作成。

所与の条件としての ジャパンサーチ

- 2020年8月に正式公開された、「我が国が保有する多様なコンテンツのメタデータをまとめて検索できる「国の分野横断型統合ポータル」」
- ここへの対応を行えば、他の様々なポータルへのデータ連携が容易に
- 今後は、地域や分野の「つなぎ役」の充実が重要に

「蓄積」から「発見」「活用」へ



デジタルアーカイブのガイドライン

- 「我が国が目指すデジタルアーカイブ社会の実現に向けて」（2020年8月）
 - 知的資産のシェアと利活用により新たな価値を創生する社会基盤としてのデジタルアーカイブジャパン（デジタルアーカイブ社会の実現）を推進
 - 幅広い知識や理解を要する人材育成には、育成環境や財政基盤等の課題がある
- 「デジタルアーカイブの構築・共有・活用ガイドライン」（2017年4月）
 - メタデータの整備、長期アクセスの保証、望ましい利用条件、データ共有、データ活用、成果物の還元、コミュニティ形成を重視
 - 「活用できる表形式のデータとは？」を付録として添付
 - この点は繰り返し課題に：総務省「[統計表における機械判読可能なデータの表記方法の統一ルール](#)の策定」（2020）
- 「デジタルアーカイブにおける望ましい二次利用条件表示の在り方について」（2019年3月）
 - 国際的に普及しているパブリック・ドメイン・ツール及び CC ライセンス。特に、CC0、CC BY を強く推奨する。
 - Rights Statements からは、著作権あり、著作権あり-教育目的の利用可、著作権なし-他の法的制限あり、著作権なし-契約による制限あり、著作権未評価のマーク。
 - 日本独自の表示としては、裁定制度により利用された著作物であることがわかるマーク（著作権未決定-裁定制度利用著作物）。
- 「デジタルアーカイブのための長期保存ガイドライン」（2020年8月）
 - 媒体の議論に重点を置かない
 - ドキュメンテーション、管理の仕組みの構築、組織的対応による真正性の確保
 - 分散保存の強い推奨
- 「デジタルアーカイブアセスメントツール（改定版）」（2020年8月）
 - デジタルアーカイブの自己点検のためのツール
 - 標準モデル（小規模な機関で行うことが推奨される水準）／先進モデル（各機関のミッション等の必要に応じて目指す水準）／つなぎ役モデル（分野・地域コミュニティのつなぎ役の役割をもつ機関が目指す水準）

スリムモデルの提案

- 「内閣府知的財産戦略本部 デジタルアーカイブの連携に関する実務者協議会メタデータのオープン化等検討ワーキンググループ」において提示（福島2016）
 - 2017年4月公表の「デジタルアーカイブの構築・共有・活用ガイドライン」に一部反映
- 発想の背景
 - デジタルアーカイブの消滅／構築主体の持続性自体が課題となっているという意識
 - 簡易さ／持続可能性 をキーワードに考える
 - 「これだけは」という要件をどう考えるか
- スリムモデルの要件
 - 利用規約の明示
 - 機械可読性の担保
 - 環境に依存しないデータ移行性の確保
 - アクセシビリティを保障
- 実践例
 - 初期の検討（[富澤ほか2018](#)）
 - モジュール的なシステム利用（[江草2018](#)）（[中村・高嶋2021](#)）

おわりに

本日のまとめ

- どの視点で考えるか
 - 図書館？公務員？地域住民？
 - 地域社会（今後は通時的な視点がより重要に）
- 地域社会にとって重要だが、現在誰もケアできていない資料と情報は？
 - 図書館（Library）なので、狭義のサービスも資料と情報の充実があってこそ（資料代or端末とDB？）
 - 地域の文化情報資源（蛭田に結実した議論を拡張した概念）なのでは？
 - 加藤紀宏寄贈資料をめぐって
 - 上山和雄編著2015『柏にあった陸軍飛行場』（芙蓉書房出版）には「加藤紀宏氏の遺族が柏市中央図書館に寄贈した未整理の秋水関連資料の中に」（p.111）とある
- 一方で、任せられるものは任せてしまう
 - 流通情報はプラットフォーム（商用サービス+NDL）由来の比率を増やしていくべきでは？
 - しかし、情報の専門家として、言うべきことは言う（そのためのアソシエーション論）
- （近）未来像
 - 外部から流通情報を取り込む拠点
 - 地域の情報を集約し発信する拠点（デジタルアーカイブはここで機能）
 - 地域の情報の真の意味でのハブになる = 「図書館サービスの新段階」

参考文献

- 相宗大督2020「記憶から記録へ: 大阪市立図書館における「思い出のこし」事業」『ライブラリー・リソース・ガイド』31
- 植田憲司, 衣川太一, 佐藤洋一編2021『戦後京都の「色」はアメリカにあった!: カラー写真が描く<オキュパイド・ジャパン>とその後』(京都府京都文化博物館)
- 植村八潮・柳与志夫編2017『ポストデジタル時代の公共図書館』(勉誠出版)
- 梅棹忠夫1987『メディアとしての博物館』(平凡社)
- 江草由佳2018「移行しやすく使いやすいデジタルアーカイブの構築: 教育図書館貴重資料デジタルコレクションの経験から」『情報知識学会誌』28-5
- 大井将生, 渡邊英徳2020「*「*ジャパンサーチを活用した小中高でのキュレーション授業デザイン: デジタルアーカイブの教育活用意義と可能性*」*『デジタルアーカイブ学会誌』4-4
- 小熊英二2019『日本社会のしくみ: 雇用・教育・福祉の歴史社会学』(講談社現代新書)
- 加納晴之, 杉森玲子, 榎原雅治, 佐竹健治2021『歴史のなかの地震・噴火』(東京大学出版会)
- 古賀崇2017「日本におけるデジタルアーカイブのゆくえを探る: 国際動向を踏まえた「より深い利用」に向けての展望」『情報の科学と技術』67(2)
- 小風尚樹, 後藤真2019「『延喜式』へのTEI適用と日本史資料のテキストデータ共有・流通」『国立歴史民俗博物館研究報告』218
- 国立大学図書館協会2019『大学図書館におけるデジタルアーカイブの利活用に向けて』(国立大学図書館協議会)
- 国立国会図書館2010『文化・学術機関におけるデジタルアーカイブ等の運営に関する調査研究』(国立国会図書館)
- 後藤真・橋本雄太編2019『歴史情報学の教科書』(文学通信)
- 是住久美子2015「ライブラリアンによるWikipedia Townへの支援」<http://current.ndl.go.jp/ca1847> (20211001確認)
- 澤谷晃子2018「大阪市立図書館デジタルアーカイブのオープンデータの利活用促進に向けた取り組み」<http://current.ndl.go.jp/ca1925> (20211220確認)
- 嶋田学2019『図書館・まち育て・デモクラシー: 瀬戸内市民図書館で考えたこと』(青弓社)
- 高橋あづみ, 川瀬綾子, 北克一2017「公立図書館における電子書籍及び電子資料の収集・提供の現状と課題」『情報学』14(1)
- 武邑光裕2003『記憶のゆくたて: デジタル・アーカイブの文化経済』(東京大学出版会)
- 田中輝美2021『関係人口の社会学: 人口減少時代の地域再生』(大阪大学出版会)
- 田山健二2018「ADEACの取り組み」『デジタルアーカイブ学会誌』2-4
- 月尾嘉男2019「デジタルアーカイブの危機」『デジタルアーカイブ推進コンソーシアム Newsletter』10
- デジタルアーカイブジャパン推進委員会・実務者検討委員会2020「3か年総括報告書: 我が国が目指すデジタルアーカイブ社会の実現に向けて」https://www.kantei.go.jp/jp/singi/titeki2/digitalarchive_suisiniinkai/pdf/r0208_3kanen_houkoku_honbun.pdf (20211220確認)
- デジタルアーカイブの連携に関する関係省庁等連絡会・実務者協議会2017「デジタルアーカイブの構築・共有・活用ガイドライン」http://www.kantei.go.jp/jp/singi/titeki2/digitalarchive_kyougikai/index.html (20211220確認)
- 富澤かな, 木村拓, 成田健太郎, 永井正勝, 中村覚, 福島幸宏2018「デジタルアーカイブの「裾野のモデル」を求めて」『情報の科学と技術』68(3)
- 長尾真1994『電子図書館』(岩波書店) (新装版は2010)
- 永崎研宜2016「今、まさに広まりつつある国際的なデジタルアーカイブの規格、IIIFのご紹介」<http://digitalnagasaki.hatenablog.com/entry/2016/04/28/192349> (20211220確認)
- 中村覚, 高嶋朋子2021「持続性と利活用性を考慮したデジタルアーカイブ構築手法の提案」『デジタルアーカイブ学会誌』5-1
- 日本図書館情報学会用語事典編集委員会編2020『図書館情報学用語事典 第5版』(丸善出版)
- 庭田杏珠・渡邊英徳2020『AIとカラー化した写真でよみがえる戦前・戦争』(光文社)
- 林直樹, 齋藤晋編2010『撤退の農村計画』(学芸出版社)
- 蛭田廣一2019『地域資料サービスの実践』(日本図書館協会)
- 平川千宏2020『市民活動 資料の保存と公開: 草の根の資料を活用するために』(日外アソシエーツ)
- 福井建策監修, 数藤雅彦編2019『権利処理と法の実務』(勉誠出版)
- 福島幸宏2011「地域拠点の形成と意義」『デジタル文化資源の活用—地域の記憶とアーカイブ』(勉誠出版)
- 福島幸宏2014「京都府立総合資料館による東寺百合文書のWEB公開とその反響」<http://current.ndl.go.jp/e1561> (20211220確認)
- 福島幸宏2016「ガイドラインに要れるべき要件(福島構成員資料)」http://www.kantei.go.jp/jp/singi/titeki2/digitalarchive_kyougikai/meta_data/dai2/siryou3_3.pdf (20211220確認)
- 福島幸宏2017「ウィキペディアタウンをMLAの立場から考える」<http://magazine-k.jp/2017/07/11/wikipediatown-for-mla/> (20211220確認)
- 福島幸宏2018「これからの図書館員像: 情報の専門家／地域の専門家として」『現代思想』46-18
- 福島幸宏, 天野絵里子2019「アーカイブズ構築のスリムモデル」(Code4Libジャパン2019報告資料)
- 福島幸宏2020「図書館機能の再定置」『ライブラリー・リソース・ガイド』31
- 福島幸宏2021a「図書館の未来像のひとつとしての地域資料活用」『図書館界』72(5)
- 福島幸宏2021b「地域の博物館や図書館などは「地方写真」の拠点たりえるか?」『国立民族学博物館研究報告』46(1)
- 福島幸宏2021c「地域資料の可能性」『図書館雑誌』115(9)
- 増田寛也2014『地方消滅』(中公新書)
- 宮田悠史2021「デジタルアーカイブを活用した地域経済振興の現状と展望: 映像アーカイブの性質と地域における効果の関係に注目した実証研究」『デジタルアーカイブ学会誌』5-s1
- 柳与志夫2020『デジタルアーカイブの理論と政策』(勁草書房)
- 柳与志夫2021「「デジタルアーカイブ」に至る道: 月尾嘉男先生インタビュー」『デジタルアーカイブ学会誌』5-4
- 吉見俊哉2017「なぜ、デジタルアーカイブなのか?: 知識循環型社会の歴史意識」『デジタルアーカイブ学会誌』1-1